

平成25年度 学校経営計画に係る自己評価計画書

石川県立翠星高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	
1	地域の環境問題に積極的に関わる意欲と態度を育成する。	① 校内環境美化に積極的に取り組む。	保健課 特活課 各年次 各分掌 各コース	毎年、マナー環境美化週間で、委員を中心に取り組んでいるが、昨年度の調査では「校内の環境美化に積極的に取り組んでいる。」と答えた生徒の割合は68%で、まだまだ意識が向上していない。	【努力指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいるか	校内の環境・美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒 A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
		② ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さについて理解を深める。	全職員 各年次 各学科 各研究会	昨年度の調査で「里山里海の大切さが理解できた」と答えた生徒の割合は62%であり、まだまだ意識が低い。	【満足度指標】 ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さを理解する。	里山里海保全の大切さが理解できた生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
2	学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けてキャリア教育の充実・強化に取り組む。	① 10分間の朝学習（翠星タイム）を実施し、基礎学力等を身につける。	教務課 各年次 各教科	昨年度の調査では「基礎学力が身についた」と答えた生徒の割合は73%であった。継続して取り組み基礎学力の向上を目指したい。	【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に取り組み、基礎学力を身につける。	基礎学力を身につけることができたと思う生徒の割合が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
		② 生徒の授業評価や研究授業、互いの授業参観を通して、授業の工夫・改善を図り、「分かる授業」に積極的に取り組む。	教務課 各教科 全教員	昨年度の調査では「授業が分かりやすい」と答えた生徒の割合は86%であった。今後は生徒がより主体的、積極的に取り組む授業を目指したい。	【満足度指標】 分かりやすいと満足している生徒が増えている。	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
		③ 3年間を見通し、各年次に応じたキャリア教育を積極的に展開し、全員の進路実現に取り組む。	進学指導課 各年次 各学科	昨年度、就職率100%は達成できたが、就職試験において1回目の内定率は54.4%と低かった。	【成果指標】 就職試験において、1回目の内定率を向上させる。	就職試験1回目の内定率が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	進路指導課による集計

平成25年度 学校経営計画に係る自己評価計画書

石川県立翠星高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、マナー等の向上に取り組む。	① 登校指導や授業等を通してマナーの向上に積極的に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	昨年度の保護者のアンケート調査では「マナーが向上した」と答えた生徒の割合は58%と低く、粘り強い指導が求められる。	【成果指標】 自発的に大きな声で挨拶ができる生徒が増加している。	マナーが向上したと答えた生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	② 基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	昨年度は前年度と比較して遅刻者の数は48%減少したが、全体としては1027件とまだ多い。	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につく、遅刻者が減少している。	前年度に比べ、遅刻者の減少割合は A 30%以上 B 20%以上 C 10%以上 D 10%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	生徒指導課による集計
	③ 登校指導、下校指導等を行い、交通安全指導に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	昨年度、二人乗り等で指導を受けた生徒の数は前年度よりも60件程度増加し、303件であった。	【成果指標】 指導を受けた生徒が減少している。	前年度に比べ、指導を受けた生徒の減少割合は A 30%以上 B 20%以上 C 10%以上 D 10%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	生徒指導課による集計
4 部活動など課外活動への積極的な参加を促し、活力のある学校づくりに取り組む。	① 講習会、講演会などを積極的に取り入れ、部や研究会活動の活性化に取り組む。	特活課 農業クラブ 全教職員 各年次	昨年度の調査では「部や研究会活動に積極的に活動している」と答えた生徒の割合は64%と低く、働きかけを強化する必要がある。	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。	部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	7月、1月に生徒を対象にアンケートを実施
	② 農業クラブ活動の活性化に取り組み、全国大会への出場者増加に取り組む。	農業クラブ 農業科 各研究会 各コース	昨年度、農業クラブ全国大会への出場者は、農業鑑定競技4名、平板測量競技3名、合計7名であった。	【成果指標】 農業クラブ活動が活性化し、全国大会への出場者が増加する。	農業クラブ全国大会への出場者は A 16名以上 B 11名以上 C 6名以上 D 学校枠の5名のみ	C、Dの場合は指導法、方策を再検討	全国大会の出場者数を確認。